

苗場：神楽ヶ峰 山スキー

◆日程 2023年3月4日(土)～5日(日)

◆メンバー L：MD、YN、OD、OM、OB

3月4日(土)曇

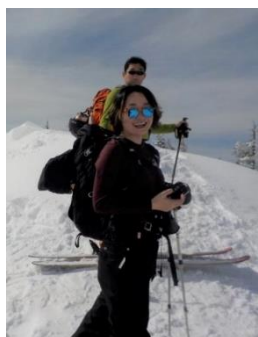
早朝発の関越道、いつもより車が多いとは思ったが、やはりであった。スキー場は多くの人で賑わっている。ロープウェー、リフト、 Gondola と乗り継いで行くのだが、混雑しているため時間を要す。スキー場上部に着く頃には10時を過ぎていた。OBさんは、新品のスキー道具であり、初めてはゲレンデで滑りたかったであろうが、いきなり山スキー本番となる。

第5 ロマンズリフト終点からシール登山していく、ガスで全く先が見えない。神楽ヶ峰を目指し、コンパス頼りに進む。稜線にでたものの景色は一切ない。ピークは諦めて「反射板」ルートを滑走することにしたものの、相変わらず先は見えない。このルートは雪崩の危険性も少ないため、5人がバラけることのないよう固まって滑ることにした。

最低な雪だ!! ガリガリのボコボコ。ターンもままならない。私と YN さんはテンションサゲサゲであった。しかしなぜか、OMさんは寄声をあげながら、アゲアゲで滑る。OBさんは、山スキーが新鮮な感じで楽しそうである。精神の強さを感じた時であった。結局、山頂付近は視界不良のため、早々にゲレンデスキー&プチバックカントリー変更し、楽しんだ後は宿に戻るようになった。宿のお兄さんに滑走ルートを相談すると、今の天候条件では、南斜面はダメとのこと。北斜面でないと楽しめないよと、アドバイスを頂戴した。その日の夜は、皆で酒を飲みながら、北斜面のあるルートを確認し就寝となる。

3月5日(日)晴

天候は最高である。白い雪に青空が映えて美しい。風も微風で登るには暑いくらいである。早々に神楽ヶ峰を目指し稜線にでると、360度の大パノラマが楽しめた。神楽ヶ峰のピークは狭く、雪庇もあるため20～30メートル手前であったが、そこをピークとした。一路進路変更し、「中尾根」ルートの北斜面を目指し、最高点でスキー滑走モードに変更。いよいよ滑走開始である。上部のツリーを交わすと開けた斜面が現れた。北斜面側は、パウダーとは言えないが、程よく締まった雪で良さげだ。だが、斜度はキツイ。スキー場のゲレンデで例えると、超上級者用のレベルである。なおかつ不整地とあつて、スキー初心者の OD さんは苦戦しながらも、必殺の横滑りでクリアしていく。横滑り技術は完全にマスターしたみたいだ。ある程度下ると、谷に降りきる前にスキー場側にトラバースしていく。ノンビリと山を楽しむながらの山スキーで、スキー場に戻るのに時間を要してしまった。この二日間で皆、ゲレンデとは違う様々なコンディションでの雪面を体験し、自然を感じることができたと思う。今度は、パウダー狙いで行きたいものだ。今回の宿泊「清つ館」は、昭和の雰囲気のある宿であるが、建物に古さは感じない。館内はとても暖かく清潔。スタッフは、老夫婦と息子さん。とても気さくで、親切な対応をして頂きました。また利用したくなる宿です。かぐらスキー場で宿をお探しの場合は、検討してみてください。



この二日間で皆、ゲレンデとは違う様々なコンディションでの雪面を体験し、自然を感じることができたと思う。今度は、パウダー狙いで行きたいものだ。今回の宿泊「清つ館」は、昭和の雰囲気のある宿であるが、建物に古さは感じない。館内はとても暖かく清潔。スタッフは、老夫婦と息子さん。とても気さくで、親切な対応をして頂きました。また利用したくなる宿です。かぐらスキー場で宿をお探しの場合は、検討してみてください。